

平成30年度県民健康調査「健康診査」 (16歳以上) 結果報告

<補足事項>

※16～39歳、40～64歳、65歳以上の3つの年齢に区分し、グラフ化した。

※全く同じ母集団ではなく、経年的な変化を比較することが出来ないため、断定的なことは言えない。

※統計的な検定は行っていない。

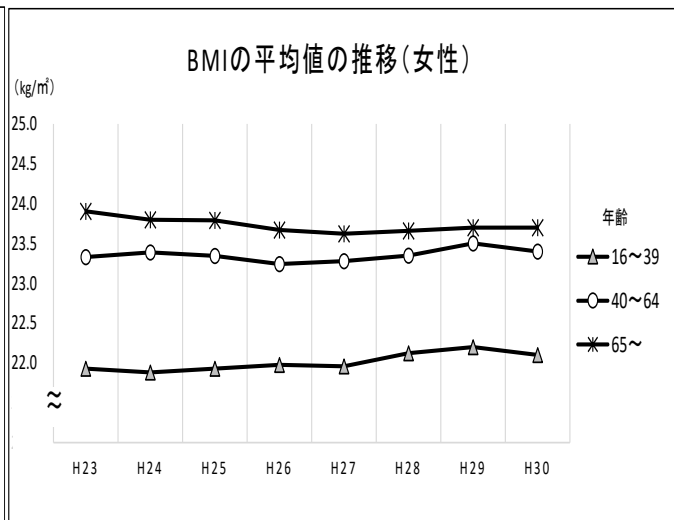
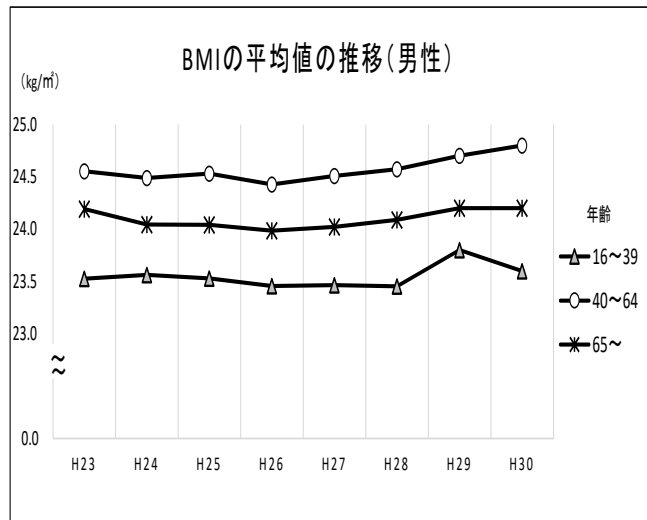
※集計結果の表章記号の規約は、厚生労働省の人口動態調査と同様に表記した。

計数のない場合	—
比率が微小(0.05未満)の場合	0.0%

※参考資料

平成23～26年度	；第21回検討委員会資料3-2	「健診項目別受診実績基礎統計表」
平成27年度	；第26回検討委員会資料3-2	「健診項目別受診実績基礎統計表」
平成28年度	；第30回検討委員会資料2-3	「健診項目別受診実績基礎統計表」
平成29年度	；第34回検討委員会資料2-3	「健診項目別受診実績基礎統計表」

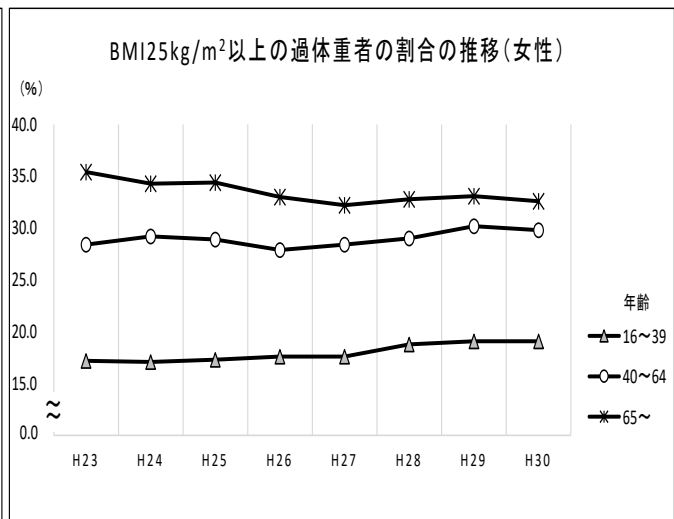
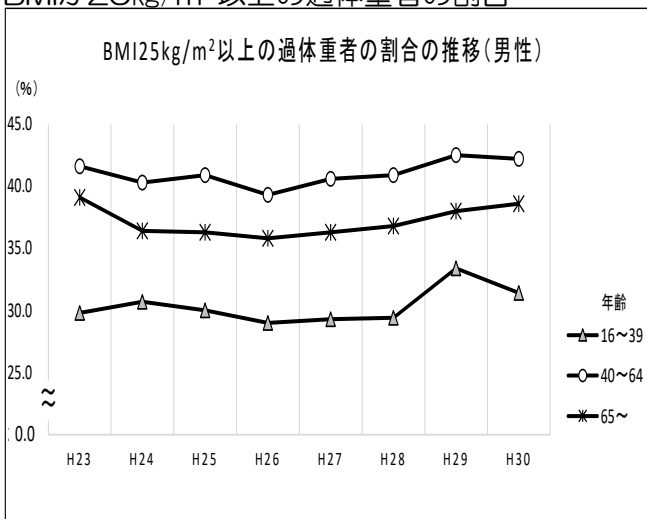
1.身体検査 (1) BMI (体重/身長²)



年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	23.5	23.5	23.5	23.5	23.5	23.5	23.8	23.6
40~64	24.6	24.5	24.5	24.4	24.5	24.6	24.7	24.7
65~	24.2	24.0	24.0	24.0	24.0	24.1	24.2	24.2

年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	21.9	21.9	21.9	22.0	22.0	22.1	22.2	22.1
40~64	23.3	23.4	23.3	23.2	23.3	23.4	23.5	23.4
65~	23.9	23.8	23.8	23.7	23.6	23.7	23.7	23.7

BMIが25kg/m²以上の過体重者の割合



年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	29.8	30.5	29.8	29.0	29.2	29.4	33.3	31.4
40~64	41.6	40.2	40.9	39.2	40.6	40.8	42.5	42.1
65~	39.0	36.4	36.2	35.8	36.3	36.9	38.0	38.6

年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	17.1	17.1	17.3	17.6	17.6	18.7	19.1	19.2
40~64	28.4	29.2	28.9	28.0	28.4	29.0	30.2	29.8
65~	35.4	34.2	34.4	33.0	32.2	32.8	33.1	32.6

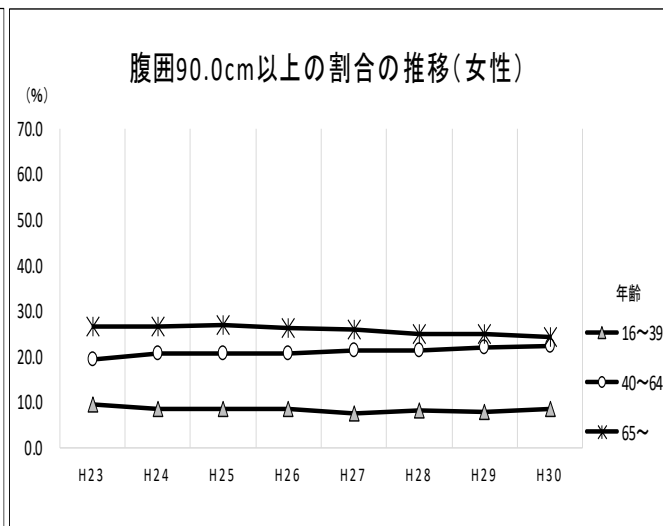
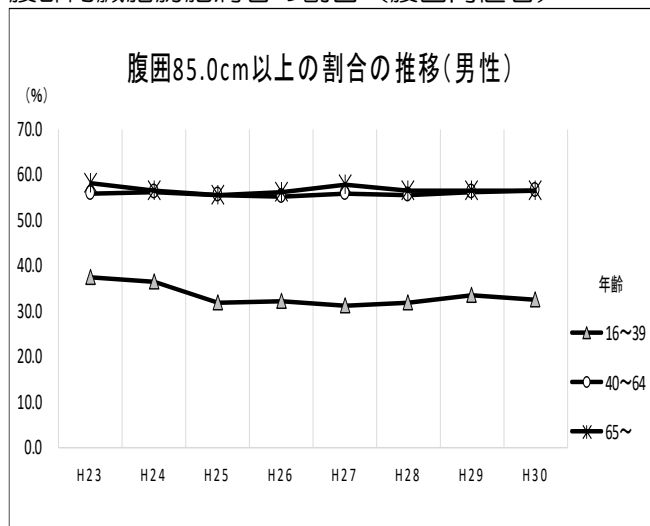
BMIは、16歳~39歳の平均値および25kg/m²以上の男性の割合において、平成29年度で増加し平成30年度では減少する傾向がみられたが、他の年齢区分では大きな変化はみられなかった。

BMI25kg/m²以上の女性の割合では、65歳以上で平成23年度から平成27年度までは減少傾向であったが、平成28年度から平成30年度では大きな変化がみられなかった。

※BMI 25kg/m²以上は、集団健診・個別健診で使用している判定基準の軽度異常値。

1.身体検査 (2) 腹囲

腹部内臓脂肪肥満者の割合 (腹囲高値者)



年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	37.1	36.2	31.7	31.6	30.8	31.7	33.3	32.3
40~64	56.0	56.2	55.6	55.3	55.8	55.6	56.3	56.4
65~	58.1	56.4	55.5	56.2	57.7	56.4	56.7	56.6

年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	9.5	8.6	8.6	8.5	7.5	8.1	8.0	8.5
40~64	19.5	20.8	20.7	20.7	21.4	21.5	22.2	22.5
65~	26.7	26.5	26.9	26.4	25.9	25.0	25.0	24.4

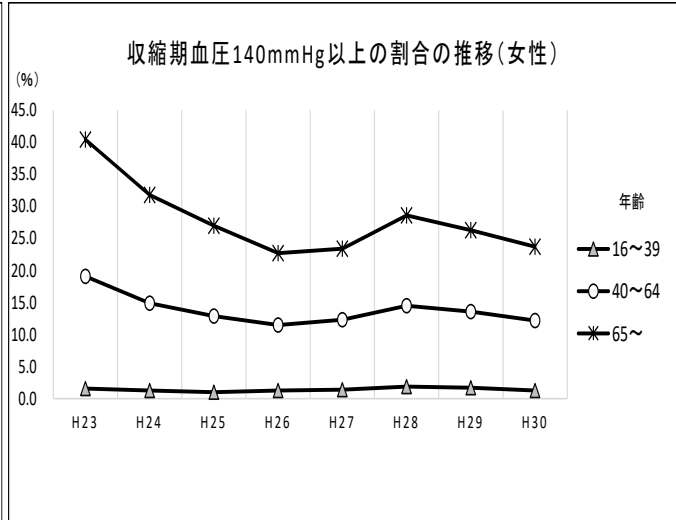
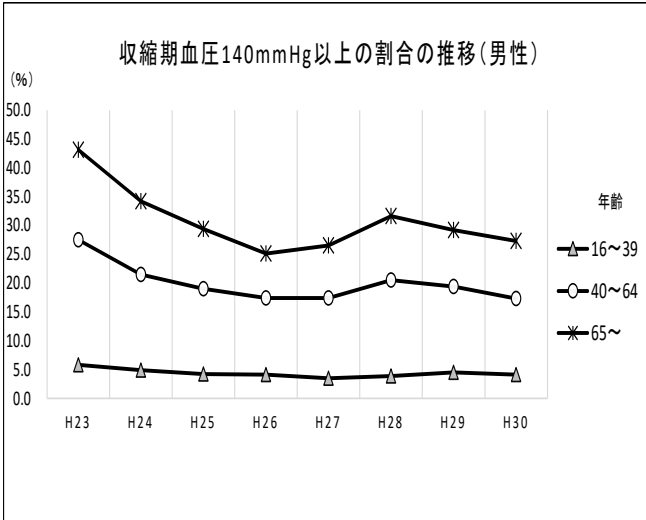
腹囲85.0cm以上の男性の割合では、16~39歳では平成23年度から平成25年度にかけて減少傾向がみられたが、平成26年度以降は大きな変化はみられなかった。

腹囲90.0cm以上の女性の割合では、40~64歳では平成23年度から平成30年度にかけて増加傾向がみられた。

※腹囲男性85.0cm以上および女性90.0cm以上は、集団健診・個別健診で使用している判定基準の軽度異常値。

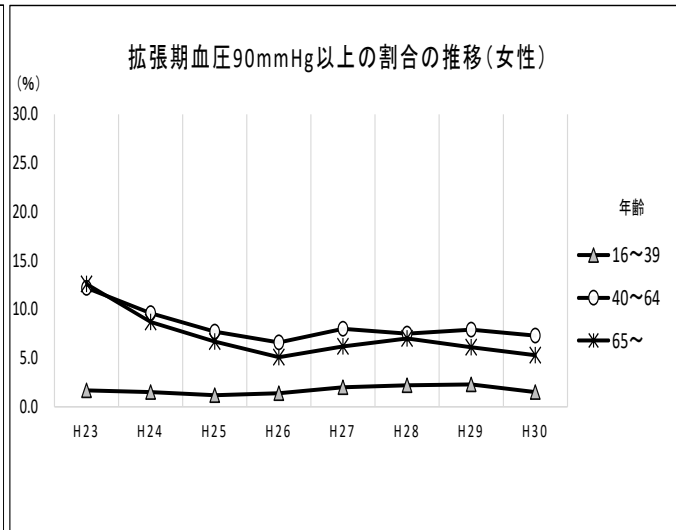
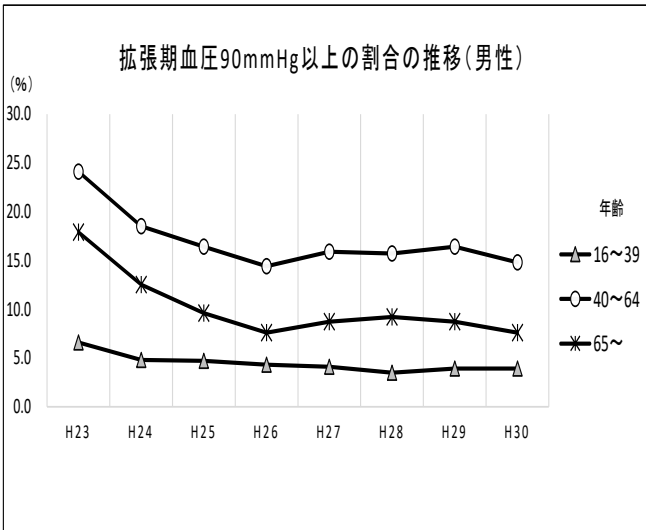
1.身体検査 (3) 血圧

高血圧者の割合 (服薬者を含む)



年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	5.7	4.9	4.2	4.1	3.4	3.9	4.6	4.1
40~64	27.4	21.4	19.1	17.4	17.3	20.5	19.4	17.3
65~	43.1	34.2	29.3	25.1	26.5	31.7	29.2	27.3

年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	1.6	1.3	1.0	1.3	1.4	1.9	1.7	1.3
40~64	19.1	14.9	12.9	11.5	12.3	14.6	13.6	12.2
65~	40.4	31.9	27.0	22.7	23.4	28.7	26.3	23.7



年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	6.6	4.8	4.7	4.3	4.1	3.5	3.9	3.9
40~64	24.1	18.5	16.5	14.4	15.9	15.8	16.4	14.8
65~	17.9	12.5	9.6	7.6	8.7	9.2	8.7	7.6

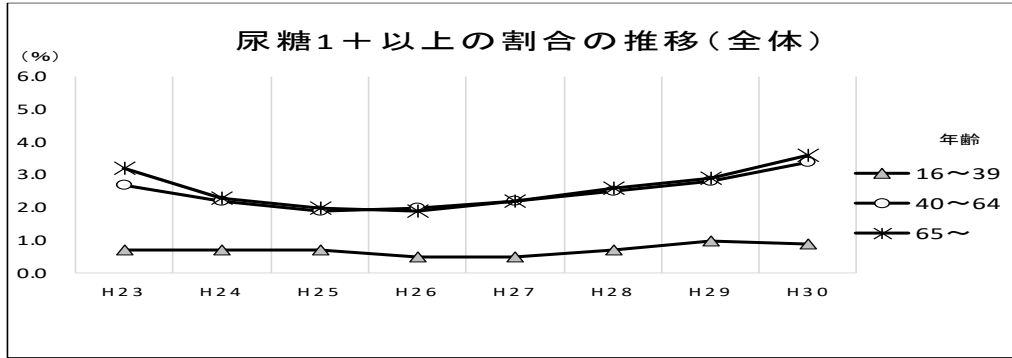
年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	1.7	1.5	1.2	1.4	2.0	2.2	2.3	1.5
40~64	12.2	9.7	7.8	6.6	8.0	7.5	7.9	7.3
65~	12.6	8.8	6.7	5.1	6.2	7.0	6.2	5.3

収縮期血圧140mmHg以上の割合は、40歳以上の男女ともに、平成23年度から平成26年度まで減少傾向がみられた。平成27年度から平成28年度にかけては増加傾向がみられたが、平成30年度にかけては減少傾向がみられた。
 拡張期血圧90mmHg以上の割合は、40歳以上の男女ともに、平成23年度から平成26年度まで減少傾向がみられたが、平成27年度以降は大きな変化はみられなかった。

※収縮期血圧140mmHg以上および拡張期血圧90mmHg以上は、集団健診・個別健診で使用している判定基準の異常値。

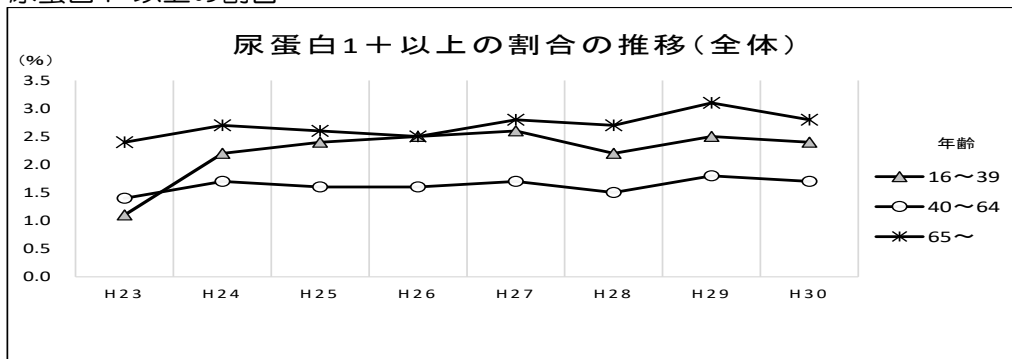
2.尿検査 (1) 尿糖 (2) 尿蛋白 (3) 尿潜血

尿糖1+以上の割合



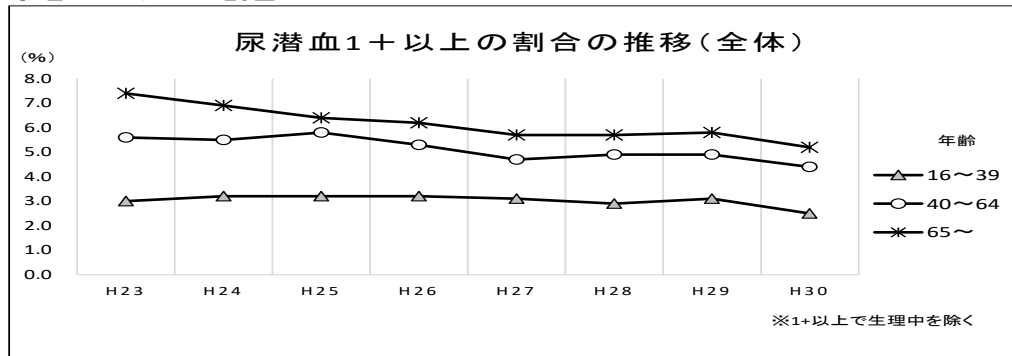
年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	0.7	0.7	0.7	0.5	0.5	0.7	1.0	0.9
40~64	2.7	2.2	1.9	2.0	2.2	2.5	2.8	3.4
65~	3.1	2.3	2.0	1.9	2.2	2.6	2.9	3.6

尿蛋白1+以上の割合



年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	1.1	2.2	2.4	2.5	2.6	2.2	2.5	2.4
40~64	1.4	1.7	1.6	1.6	1.7	1.5	1.8	1.7
65~	2.4	2.7	2.6	2.5	2.8	2.7	3.1	2.8

尿潜血1+以上の割合



年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	3.0	3.1	3.2	3.2	3.1	3.0	3.1	2.5
40~64	5.6	5.5	5.8	5.3	4.8	4.9	4.9	4.4
65~	7.3	6.9	6.4	6.2	5.7	5.7	5.8	5.2

尿糖1+以上の割合は、40歳以上において、平成27年度から増加傾向がみられた。

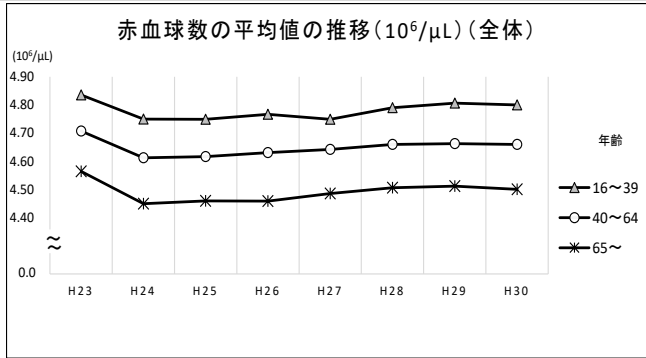
尿蛋白1+以上の割合は、16~39歳の年齢区分において、平成23年度から平成30年度まで増加傾向がみられた。

尿潜血1+以上の割合は、40歳以上では、平成23年度から平成30年度まで減少傾向がみられた。

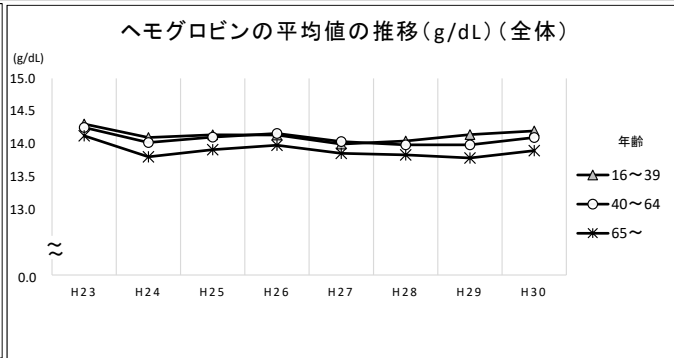
※尿糖1+以上、尿蛋白1+以上および尿潜血1+以上は、集団健診・個別健診で使用している判定基準の異常値。

3.末梢血液検査

(1) 赤血球、ヘモグロビン、ヘマトクリット

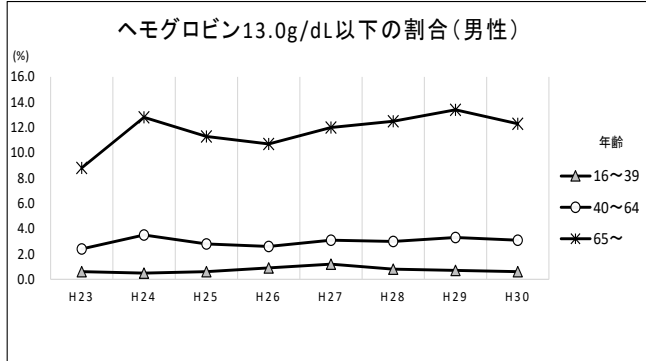


年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	4.84	4.75	4.75	4.77	4.75	4.79	4.81	4.80
40~64	4.71	4.61	4.62	4.63	4.64	4.66	4.66	4.66
65~	4.56	4.45	4.46	4.46	4.49	4.51	4.51	4.50

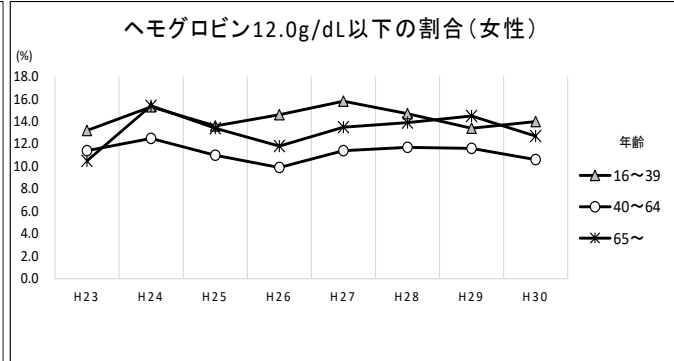


年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	14.3	14.1	14.1	14.1	14.0	14.0	14.1	14.2
40~64	14.3	14.0	14.1	14.2	14.0	14.0	14.0	14.1
65~	14.1	13.8	13.9	14.0	13.9	13.8	13.8	13.9

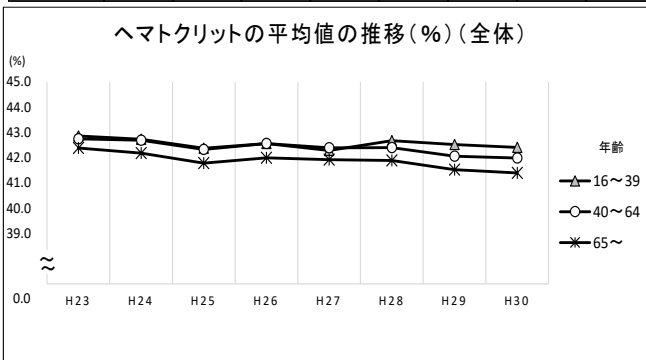
ヘモグロビン (男性) 13.0g/dL以下の割合と (女性) 12.0g/dL以下の割合



年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	0.6	0.5	0.6	0.9	1.2	0.8	0.7	0.6
40~64	2.4	3.5	2.8	2.6	3.1	3.0	3.3	3.1
65~	8.8	12.8	11.4	10.7	12.1	12.5	13.4	12.3



年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	13.2	15.3	13.6	14.6	15.8	14.7	13.4	14.0
40~64	11.4	12.6	11.0	9.9	11.4	11.7	11.6	10.6
65~	10.5	15.4	13.4	11.8	13.5	13.9	14.5	12.7



年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	42.9	42.7	42.4	42.6	42.3	42.7	42.5	42.4
40~64	42.8	42.7	42.3	42.6	42.4	42.4	42.1	42.0
65~	42.4	42.2	41.8	42.0	41.9	41.9	41.5	41.4

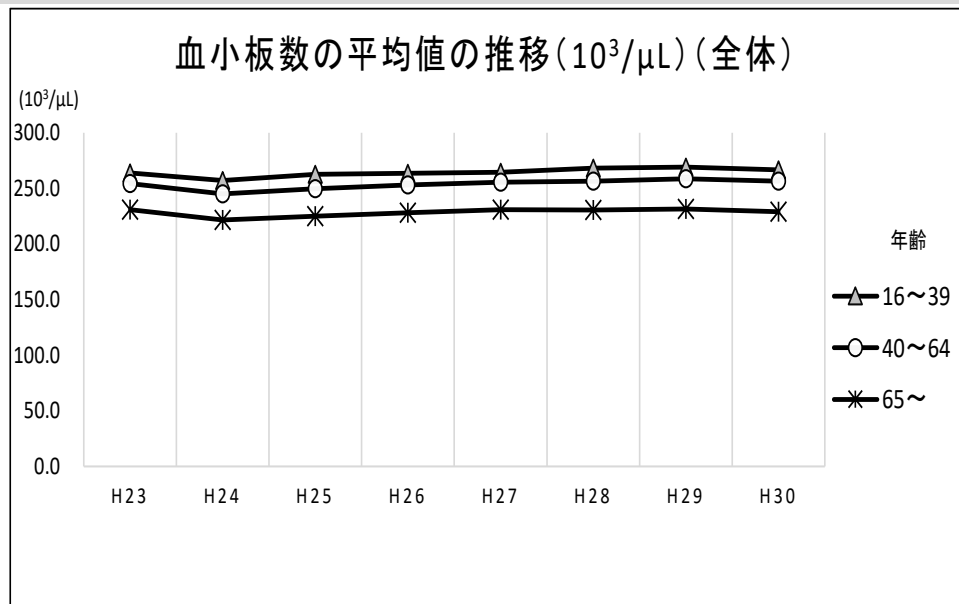
赤血球数およびヘモグロビンの平均値は、全ての年齢区分で平成23年度から平成24年度にかけて減少がみられたが、平成25年度には増加し、その後は大きな変化はみられなかった。

ヘモグロビン13.0g/dL以下の男性の割合は、65歳以上で平成23年度から平成24年度にかけて増加し、その後は横ばいの傾向がみられた。12.0g/dL以下の女性の割合は、65歳以上で平成23年度から平成24年度にかけて増加し、その後は減少と増加を繰り返す傾向がみられた。

ヘマトクリットは、全ての年齢区分において、大きな変化はみられなかった。

※ヘモグロビン男性13.0g/dL以下および女性12.0g/dL以下は、集団健診・個別健診で使用している判定基準の軽度異常値。

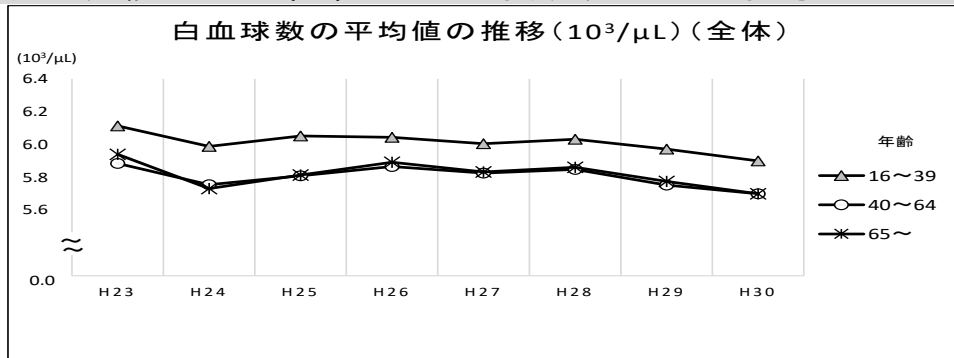
3.末梢血液検査 (2) 血小板数



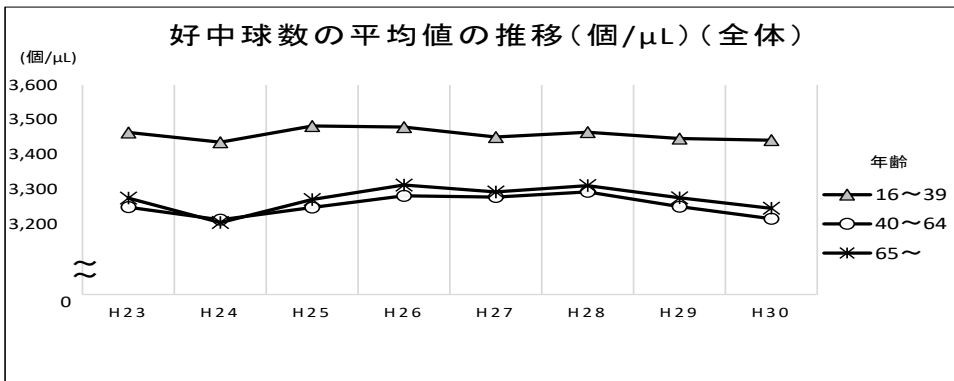
年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	264.0	257.1	262.6	263.7	264.6	268.2	269.1	266.7
40~64	254.3	245.0	249.7	252.9	255.6	256.3	258.7	256.5
65~	230.9	221.7	225.1	228.0	230.8	230.6	231.3	229.0

血小板数の平均値では、全ての年齢区分で、平成23年度から平成30年度まで大きな変化はみられなかった。

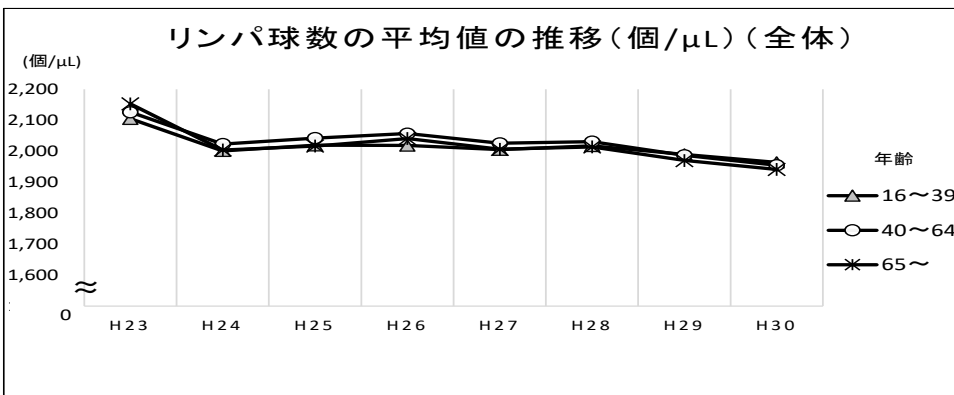
3.末梢血液検査 (3) 白血球数、白血球分画



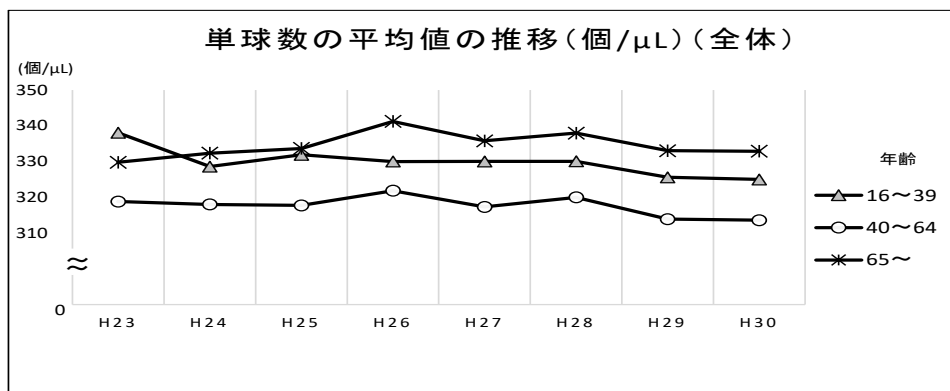
年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	6.1	6.0	6.1	6.0	6.0	6.0	6.0	5.9
40~64	5.9	5.8	5.8	5.9	5.8	5.8	5.8	5.7
65~	5.9	5.7	5.8	5.9	5.8	5.9	5.8	5.7



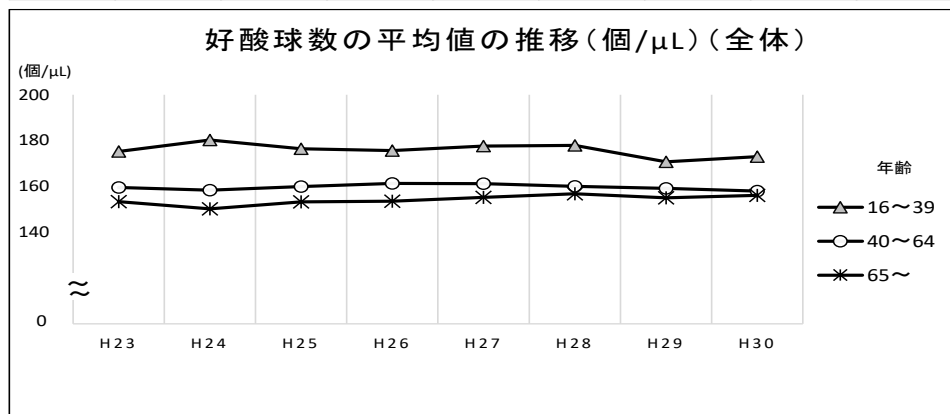
年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	3,464	3,436	3,482	3,479	3,451	3,465	3,447	3,442
40~64	3,250	3,214	3,249	3,282	3,279	3,294	3,252	3,217
65~	3,276	3,206	3,272	3,314	3,294	3,312	3,277	3,247



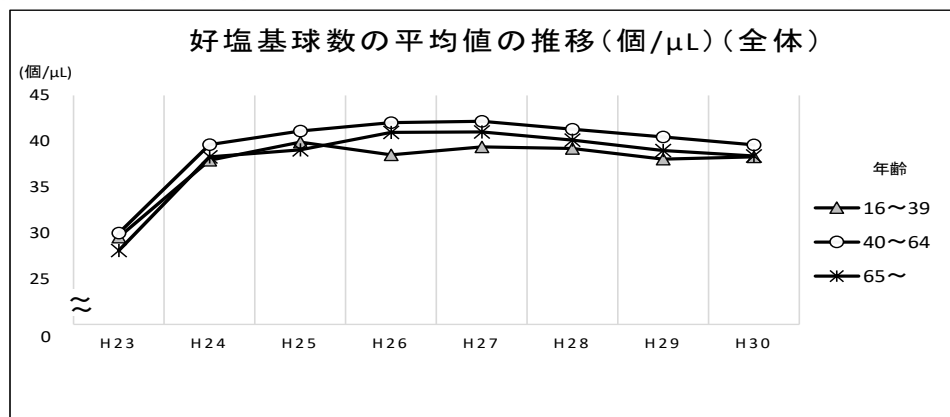
年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	2,105	2,001	2,019	2,018	2,005	2,017	1,990	1,964
40~64	2,126	2,023	2,042	2,057	2,026	2,031	1,987	1,955
65~	2,153	2,004	2,017	2,041	2,006	2,014	1,970	1,941



年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	338	329	332	330	330	330	326	325
40~64	319	318	318	322	317	320	314	314
65~	330	332	334	341	336	338	333	333



年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	175	180	176	176	178	178	171	174
40~64	159	159	160	161	161	160	159	158
65~	153	150	153	154	155	157	155	156



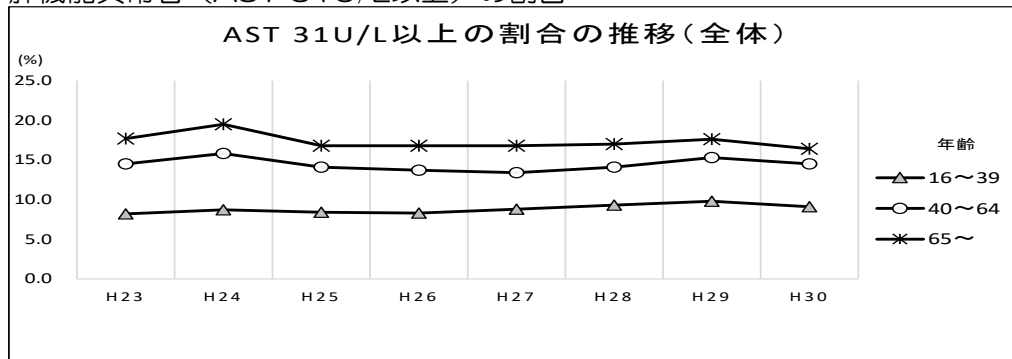
年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	30	38	40	39	39	39	38	38
40~64	30	40	41	42	42	41	40	40
65~	28	38	39	41	41	40	39	38

白血球数の平均値は、全ての年齢区分で、平成23年度から平成30年度まで大きな変化はみられなかった。

白血球分画では、好中球数、リンパ球数、単球数および好酸球数の平均値では、全ての年齢区分において、平成23年度から平成30年度まで大きな変化はみられなかった。好塩基球数の平均値では、全ての年齢区分において、平成24年度から平成30年度にかけて大きな変化はみられなかった。

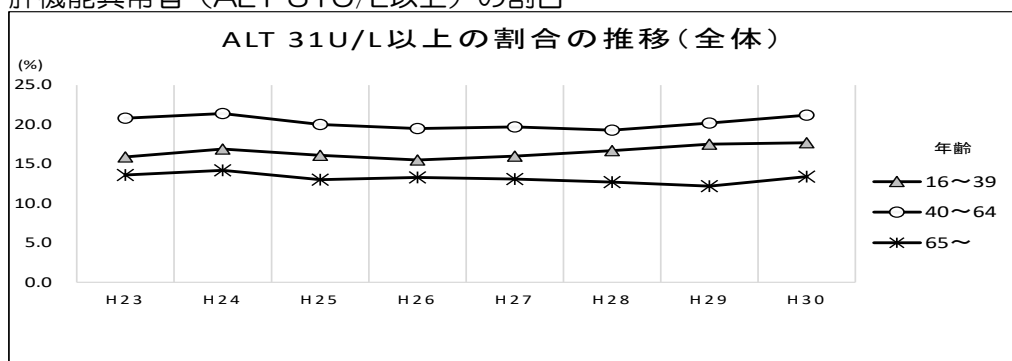
4.血液生化学 (1) 肝機能 (AST、ALT、 γ -GT)

肝機能異常者 (AST 31U/L以上) の割合



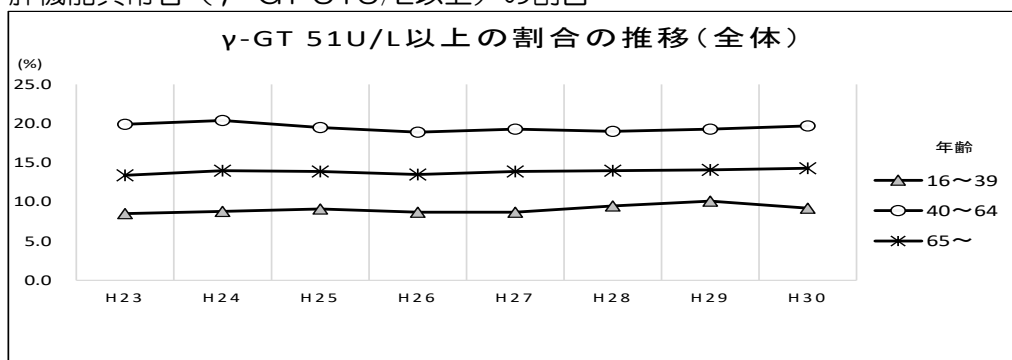
年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	8.2	8.7	8.4	8.3	8.8	9.3	9.8	9.1
40~64	14.5	15.8	14.1	13.7	13.4	14.1	15.3	14.5
65~	17.7	19.5	16.8	16.8	16.8	17.0	17.6	16.4

肝機能異常者 (ALT 31U/L以上) の割合



年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	15.9	16.8	16.1	15.5	15.9	16.7	17.5	17.7
40~64	20.8	21.4	20.0	19.5	19.7	19.3	20.2	21.2
65~	13.7	14.1	13.0	13.3	13.1	12.7	12.2	13.4

肝機能異常者 (γ -GT 51U/L以上) の割合



年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	8.5	8.7	9.0	8.7	8.7	9.5	10.1	9.1
40~64	19.9	20.5	19.5	18.9	19.3	19.0	19.3	19.7
65~	13.4	14.0	13.9	13.5	13.9	13.9	14.1	14.3

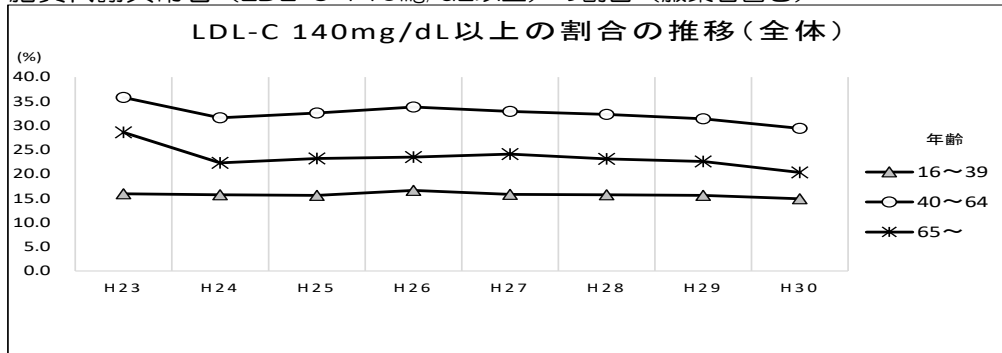
AST 31U/L以上の割合、ALT 31U/L以上の割合および γ -GT 51U/L以上の割合は、全ての年齢区分において大きな変化はみられなかった。

※AST31U/L以上、ALT31U/L以上および γ -GT51U/L以上は、集団健診・個別健診で使用している判定基準の軽度異常値。

4.血液生化学

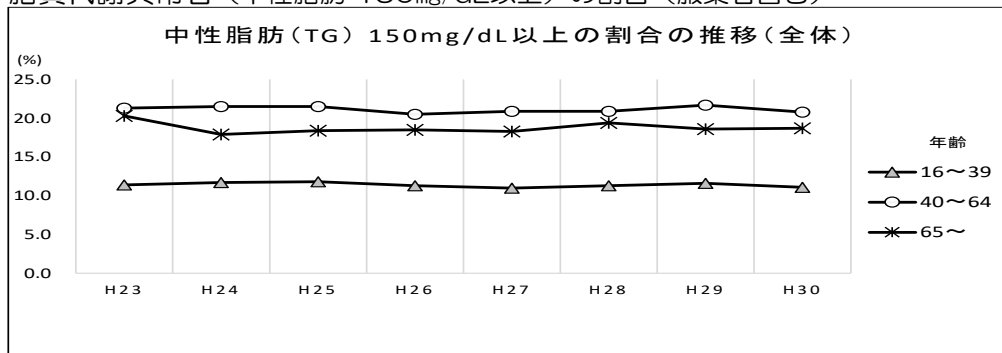
(2) 脂質 (LDLコレステロール、中性脂肪、HDLコレステロール)

脂質代謝異常者 (LDL-C 140mg/dL以上) の割合 (服薬者含む)



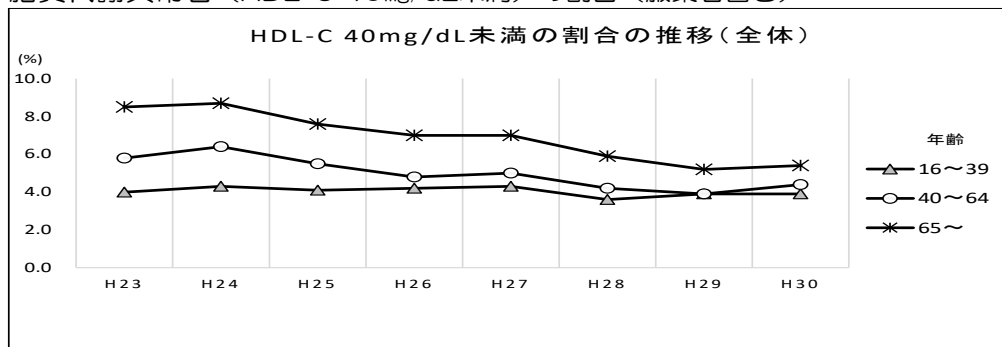
年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16～39	15.9	15.7	15.6	16.6	15.8	15.7	15.5	14.9
40～64	35.8	31.6	32.6	33.8	33.0	32.3	31.4	29.4
65～	28.5	22.3	23.2	23.5	24.1	23.1	22.6	20.3

脂質代謝異常者 (中性脂肪 150mg/dL以上) の割合 (服薬者含む)



年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16～39	11.3	11.7	11.7	11.3	11.0	11.2	11.5	11.1
40～64	21.3	21.4	21.4	20.5	20.9	20.9	21.7	20.7
65～	20.3	17.9	18.3	18.5	18.3	19.4	18.6	18.7

脂質代謝異常者 (HDL-C 40mg/dL未満) の割合 (服薬者含む)



年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16～39	4.0	4.2	4.1	4.2	4.3	3.6	3.9	3.9
40～64	5.8	6.4	5.5	4.8	5.0	4.2	3.9	4.4
65～	8.5	8.7	7.7	7.0	7.0	5.9	5.2	5.4

LDL-C140mg/dL以上の割合および中性脂肪150mg/dL以上の割合は、65歳以上では平成23年度から平成24年度にかけてやや減少傾向がみられたが、それ以降は大きな変化はみられなかった。

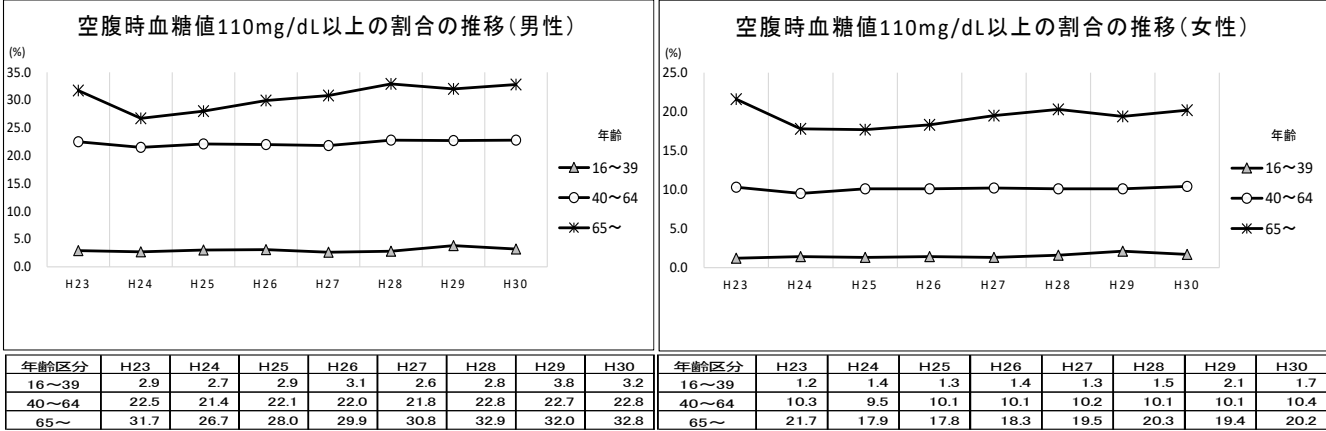
HDL-C40mg/dL未満の割合は、40歳以上で、平成23年度から平成30年度にかけて減少傾向がみられた。

※LDL-C140mg/dL以上は、集団健診・個別健診で使用している判定基準の異常値。

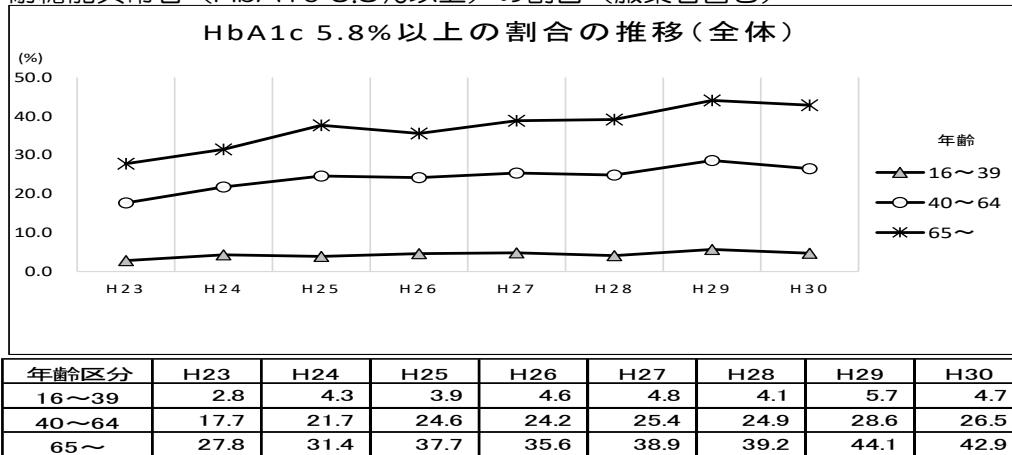
中性脂肪150mg/dL以上およびHDL-C40mg/dL未満は、集団健診・個別健診で使用している判定基準の軽度異常値。

4.血液生化学 (3) 糖 (空腹時血糖、HbA1c)

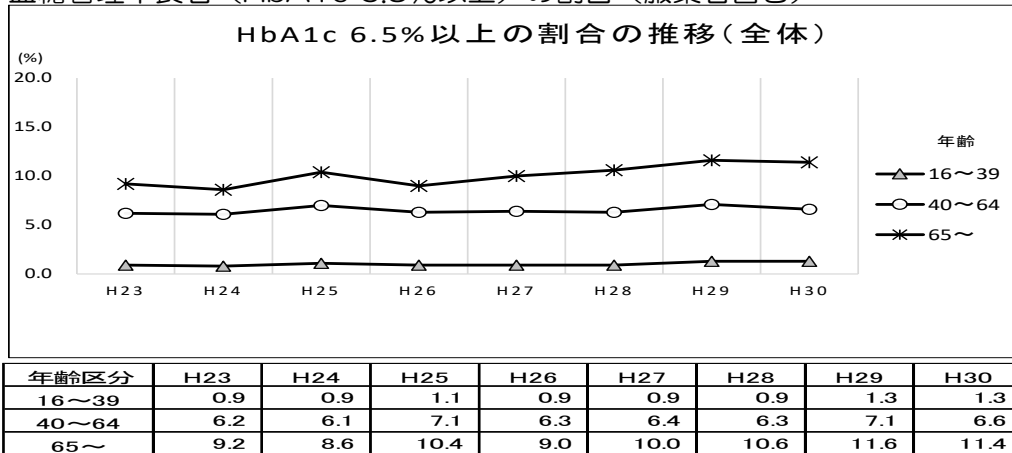
耐糖能異常者(空腹時血糖値110mg/dL以上)の割合



耐糖能異常者(HbA1c 5.8%以上)の割合(服薬者含む)



血糖管理不良者(HbA1c 6.5%以上)の割合(服薬者含む)



空腹時血糖値110mg/dL以上の割合は、65歳以上の男女で、平成23年度から平成24年度にかけて減少がみられたが、その後は大きな変化はみられなかった。

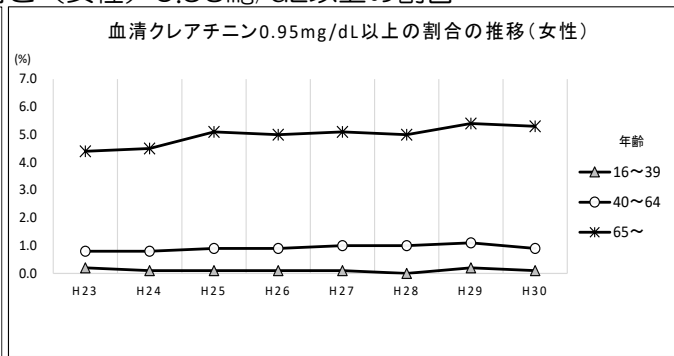
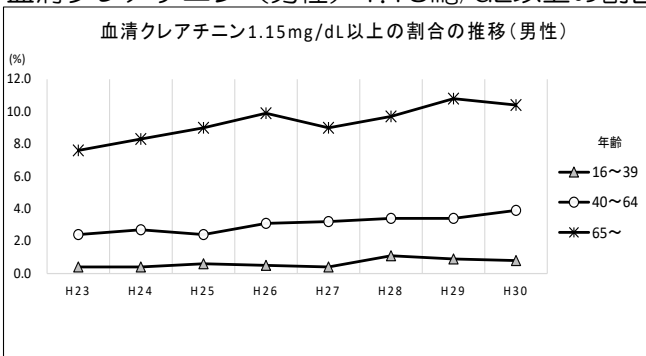
HbA1c5.8%以上の割合およびHbA1c6.5%以上の割合では、全ての年齢区分において平成23年度から平成30年度まで増加傾向がみられた。

※HbA1c5.8%以上および6.5%以上は、「糖尿病治療ガイド2012-2013」における指標。

4.血液生化学

(4) 腎機能 (血清クレアチニン、eGFR、尿酸)

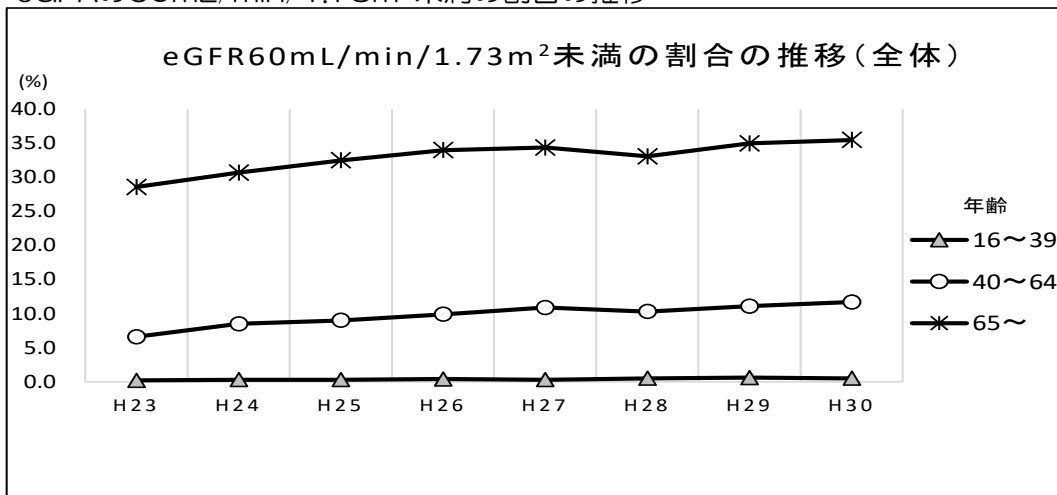
血清クレアチニン (男性) 1.15mg/dL以上の割合と (女性) 0.95mg/dL以上の割合



年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	0.4	0.4	0.6	0.5	0.4	1.1	0.9	0.8
40~64	2.4	2.7	2.4	3.1	3.2	3.4	3.4	3.9
65~	7.6	8.3	9.1	9.9	9.0	9.7	10.8	10.4

年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1
40~64	0.8	0.8	0.9	0.9	1.0	1.0	1.1	0.9
65~	4.4	4.6	5.1	5.0	5.1	5.0	5.4	5.3

eGFRの60mL/min/1.73m²未満の割合の推移



年齢区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
16~39	0.2	0.3	0.3	0.4	0.3	0.5	0.6	0.5
40~64	6.6	8.5	9.0	9.9	10.9	10.3	11.1	11.7
65~	28.6	30.7	32.5	34.0	34.4	33.1	35.0	35.5

血清クレアチニン1.15mg/dL以上の男性の割合は、40~64歳では平成23年度から平成30年度にかけて増加傾向がみられた。また、65歳以上では、平成26年度にかけて増加傾向がみられたが、平成27年度には減少し、平成30年度にかけて増加傾向がみられた。

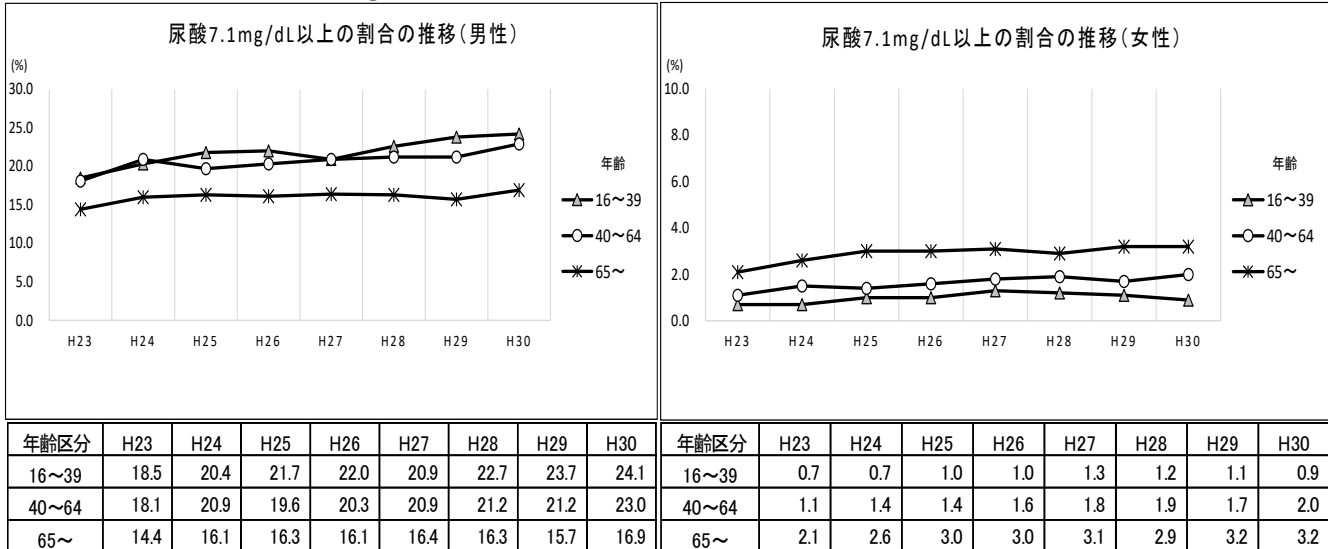
血清クレアチニン0.95mg/dL以上の女性の割合は、65歳以上では平成23年度から平成30年度にかけて増加傾向がみられた。

eGFR60mL/min/1.73m²未満の割合は、全ての年齢区分で増加傾向がみられた。

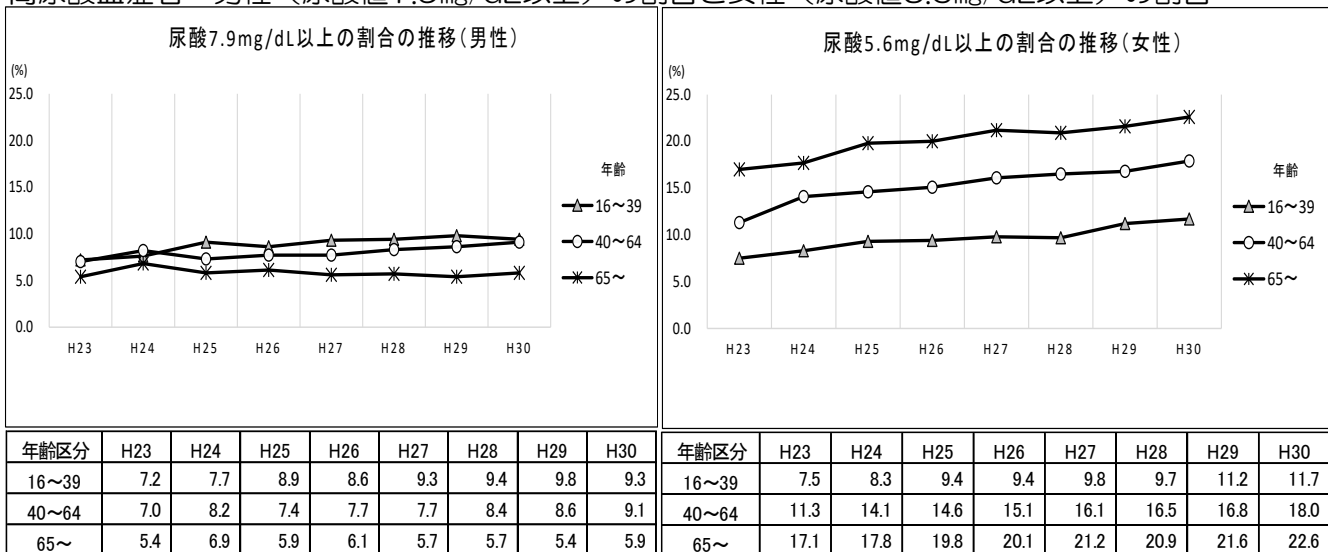
※血清クレアチニン男性1.15mg/dL以上、女性0.95mg/dL以上は、集団健診・個別健診で使用している判定基準の軽度異常値。

※eGFR60mL/min/1.73m²未満は、集団健診・個別健診で使用している判定基準の軽度異常値。

高尿酸血症者（尿酸値7.1mg/dL以上）の割合



高尿酸血症者 男性（尿酸値7.9mg/dL以上）の割合と女性（尿酸値5.6mg/dL以上）の割合



尿酸値7.1mg/dL以上の割合は、男性の全ての年齢区分において平成23年度から平成30年度までで増加傾向がみられた。また、女性の40歳以上において平成23年度から平成30年度まででわずかに増加傾向がみられた。

尿酸値7.9mg/dL以上の男性の割合は、16~64歳では平成23年度から平成30年度にかけて増加傾向がみられた。

尿酸値5.6mg/dL以上の女性の割合は、全ての年齢区分において平成23年度から平成30年度にかけて増加傾向がみられた。

※尿酸値7.1mg/dL以上は、日本痛風・核酸代謝学会作成「高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン」の定義による値。

尿酸値男性7.9mg/dL以上および女性5.6mg/dL以上は、日本臨床検査標準協議会設定共用基準範囲の上限の値。

【 判定基準一覧表 】

※集団健診・個別健診で使用している基準値

※小児は、年齢や月齢で基準が異なるため基準値は定めていない（参考値のみ有り）。

※白血球分画について、以下は「%」で参考値を示しているが、基礎統計表では「個数」を示している。

項目	判定区分		基準範囲内	軽度異常		異常	単位	
	項目							
肥満度	BMI (体格指数)		18.5~24.9	18.4 以下	25.0 以上	—	kg/m ²	
	腹囲	男	84.9 以下	85.0 以上		—	cm	
		女	89.9 以下	90.0 以上		—		
血圧	収縮期(最高)血圧		129 以下	130~139		140 以上	mmHg	
	拡張期(最低)血圧		84 以下	85~89		90 以上		
腎臓・尿路	血清クレアチニン (酵素法)	男	0.45~1.14	1.15~1.34		1.35 以上	mg/dL	
		女	0.35~0.94	0.95~1.14		1.15 以上		
	eGFR(推算糸球体濾過量)		60以上	50~59		49 以下	mL/min./1.73m ²	
	尿蛋白		(-)	(±)		(+) 以上		
	尿潜血		(-)	(±)		(+) 以上		
糖	尿糖		(-)	(±)		(+) 以上		
	血糖	空腹時	99 以下	100~125		126 以上	mg/dL	
		随時	139 以下	140~199		200 以上		
	ヘモグロビンA1c (NGSP)		5.5 以下	5.6~6.4		6.5以上	%	
脂質	HDLコレステロール		40 以上	35~39		34 以下	mg/dL	
	LDLコレステロール		119 以下	120~139		140 以上	mg/dL	
	中性脂肪		149以下	150~299		300 以上	mg/dL	
肝臓	AST(GOT)		30 以下	31~50		51 以上	U/L	
	ALT(GPT)		30 以下	31~50		51 以上	U/L	
	γ-GT		50 以下	51~100		101 以上	U/L	
痛風	尿酸 (UA)		7.0 以下	7.1~7.9		8.0 以上	mg/dL	
血液一般	赤血球数	男	4.00~5.79	3.70~3.99	5.80 以上	3.69 以下	×10 ⁶ /μL	
		女	3.70~5.49	3.40~3.69	5.50 以上	3.39 以下		
	血色素量	男	13.1~17.9	12.1~13.0		12.0 以下	18.0 以上	g/dL
		女	12.1~15.9	11.1~12.0		11.0 以下	16.0 以上	
	ヘマトクリット値	男	38.0~54.9	36.0~37.9	55.0 以上		35.9 以下	%
		女	33.0~47.9	29.0~32.9	48.0 以上		28.9 以下	
血小板数		130~369	90~129	370~449	89以下	450以上	×10 ³ /μL	
白血球数		4.0~9.5	3.0~3.9	9.6~11.0	2.9 以下	11.1 以上	×10 ³ /μL	
(白 参 考 球 値 分 画)	好中球		40.0~75.0				%	
	リンパ球		20.0~55.0					
	単球		0~12.0					
	好酸球		0~10.0					
	好塩基球		0~3.0					

健診項目

健診項目	内 容
身長、体重、腹囲（BMI）	身長と体重を測って肥満度をみます。 腹囲（BMI）はメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の判定基準となります。
血圧	血圧の状態を確認します。高血圧症などを見つけます。
尿検査	
尿糖	糖尿病を見つける手がかりとなります。
尿蛋白	腎臓の病気を見つける手がかりとなります。
尿潜血	腎臓や尿管、膀胱の病気を見つける手がかりとなります。
血液検査	
AST(GOT) ALT(GPT) γ-GT	肝臓の病気を見つける手がかりとなります。また、AST(GOT)は心筋梗塞を見つける手がかりにもなります。
中性脂肪(TG) HDL-C LDL-C	動脈硬化のなりやすさの程度をみます。
赤血球数、ヘマトクリット 血色素量（ヘモグロビン）	貧血の種類と程度をみます。
ヘモグロビンA1c(HbA1c) 血糖	糖尿病などを見つける手がかりとなります。
白血球数、白血球分画 血小板数	感染症や白血病などを見つける手がかりとなります。
血清クレアチニン、eGFR	腎臓の病気を見つける手がかりとなります。
尿酸	痛風などを見つける手がかりとなります。